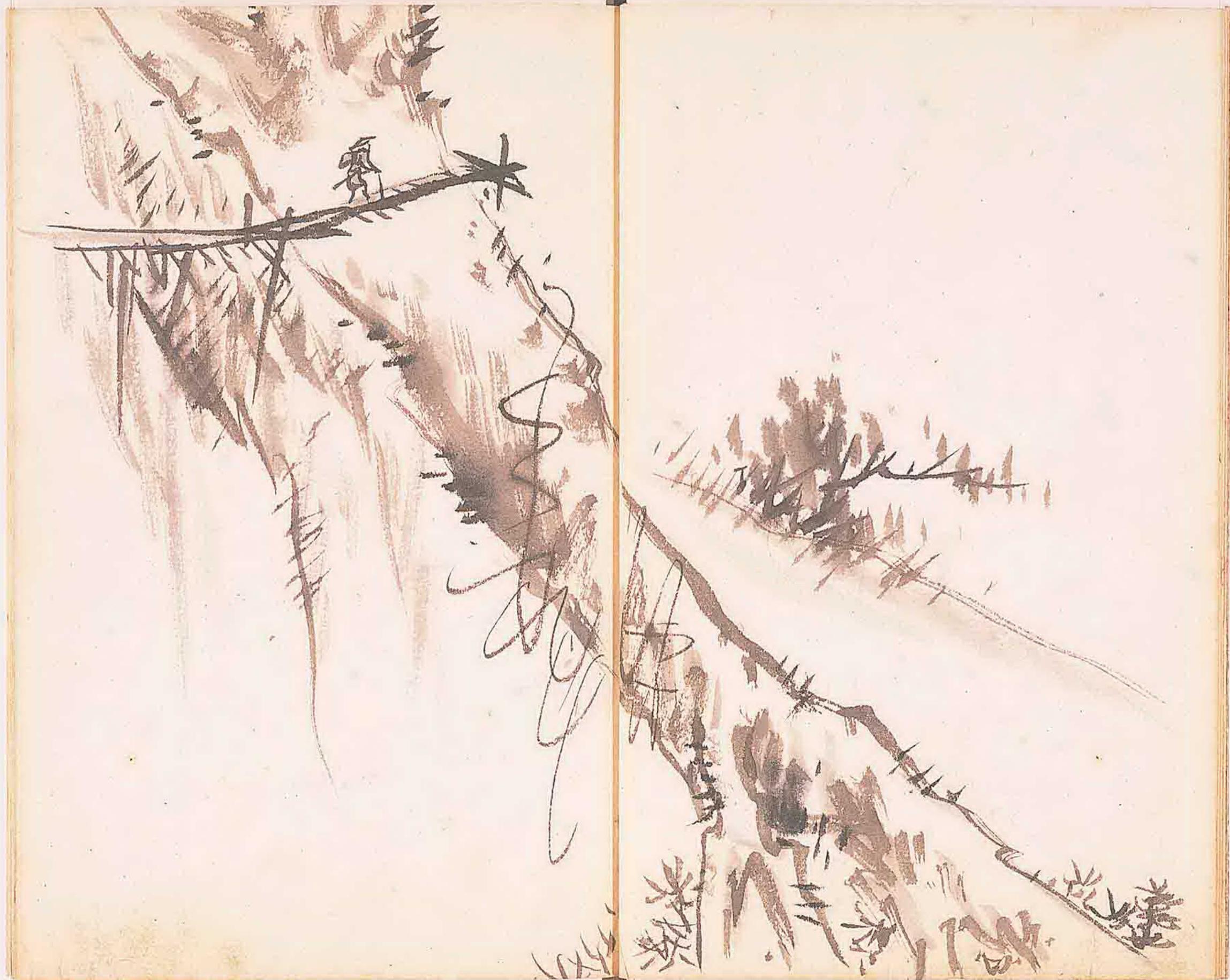


秩父日記

三



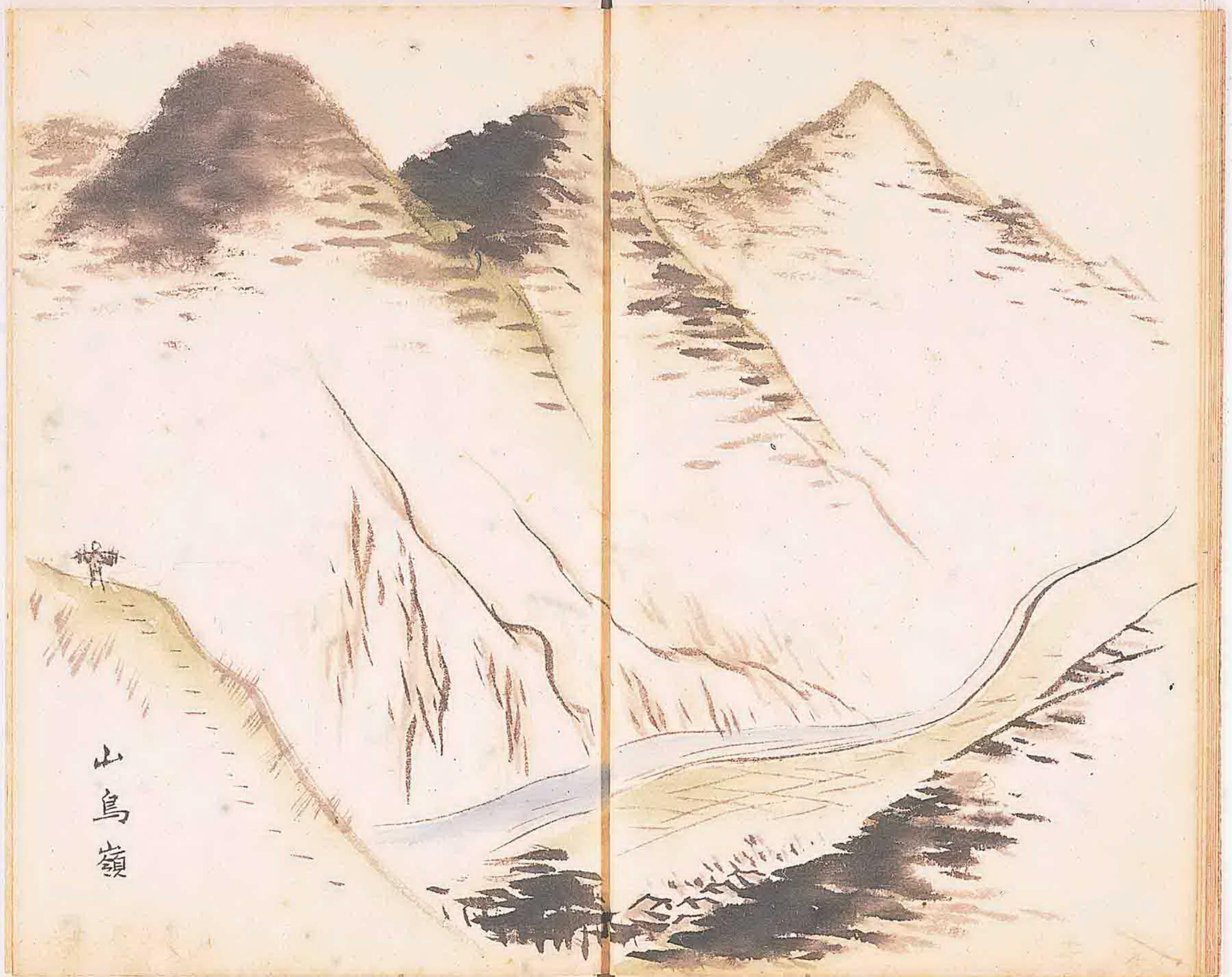


カリカケ澤入口



たのしみ道へ来た





山鳥嶺

道産のりつげ平らおらうと、鉛の出るよら
さき頃、巖きりきり、ひきききききききききき
中津川村のりつげ平らおらうと、鉛の出るよら
きほお石ききききききききききききききき
うきききききききききききききききききき
あひききききききききききききききききき
のらお依之部、梓山、梓山、梓山、梓山、梓山、
甘楽郡、地、東、南、西、北、南、西、北、南、西、北、
田、田、田、田、田、田、田、田、田、田、田、田、
おてきききききききききききききききききき

三十六里、おらうと、鉛の出るよら、細ききき
さき頃、巖きりきり、ひきききききききききき
中津川村のりつげ平らおらうと、鉛の出るよら
きほお石ききききききききききききききき
うきききききききききききききききききき
あひききききききききききききききききき
のらお依之部、梓山、梓山、梓山、梓山、梓山、
甘楽郡、地、東、南、西、北、南、西、北、南、西、北、
田、田、田、田、田、田、田、田、田、田、田、田、
おてきききききききききききききききききき

中津川村繪圖

ウスミ 官林 崩黄 百姓山カセキ場
黄 鉛カセキ場

十六日海邊の内村と志剛寺の南麻
と新島と被る一足利善徳新島
指取の多分一少儀も至田人敵討
梅也の地好仕合程と此の指一
後月一休物中一善徳仕合

壬午後也物一昨十日善徳寺の善徳先
下月廿七日善徳寺の善徳

二月廿日

貞真

安房守殿

山崎故之... 古梅... 是... 和
 城... 道... 押... 指... 不... 韶... 亦... 合... 也
 後... 年... 之... 於... 之... 殿... 橋... 之... 子... 從
 江... 田... 相... 也... 事... 之... 故... 之... 於
 古... 碧... 故... 之... 之... 之... 海... 之...

山崎
 氏真

右三山里竹名 齊藤隼輔藏

あつてついでにこの山にのぼると薄村と云ふ所
よの村長多比良島解申と云ふ所の古き文書に
とらふと云ふ一ちもゆのぬらあるいふまゝゆふ
と云ふゆふと云ふ一ちのゆふまゝと云明平のゆふ
者ふこのも古き文書ゆふと云ふゆふと云ふゆふ
よりゆふゆふと云ふゆふのゆふの軍兵ゆふゆふ
特多口手ゆふゆふ威ゆふ親ゆふ新友まゆゆ死
ゆふ不教ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ

セー 所々今も軍平と云ふゆふゆふ

三山村明平赤左衛門三藏

三山^に谷^に新^にお^に働^にゆ^に
抽^多お^に縁^被言^者ゆ^に也
無^比類^にゆ^に親^に新^に集^にゆ^に
遂^に討^死ゆ^に奉^不教^人ゆ^に向



二子山

飯三峠

黒峠

トブタ嶺



白石山

マミヤウタヒラ

同明年黒竹から一の里の家おまらひのこころの

かくて唐川のつらなる多治良民に於ては
ふたにありてのみ文書ゆゑにありしに
やうして死出してはるる建武二年七月と書るに
と六のつらなるにありしに相模次郎時次
若年の國よりあるを録言しありしに
るる歌舞樂川少く敵陣之方ありしに
殊に老人のほろきしにありしにありしに
ありしにありしにありしにありしにありしに

三山谷に詠む御は

変及仕合被さるるに
威悦に向境お走廻
去りては杜曲も如仍如

件

永禄十二年

ありしに

氏新

多治良將監

今度歌詠系川合戦
敵陣及之度遜散
此陣起人之御拔
群之心不重与忠賞
下有河法也
仍与感状也

丹生宮部

義一馬

天氣軍令

建武二年



七月十日

物股平六郎



於上列等無涉海濱敵
多此良豐後當討捕之
事初陳之在如武切
之理亦係之為為在之實
敵先令汝信之向後
今此良之之言如常不擬
與

了為是書者也

永祿十一年

六月九日

氏康 印

指股平年

右薄村竹平地里正多比良勘十田藏

此家もな猪股氏々々の越中前司盛俊と付
り小平六々のちしとて入可く多治良とあまめ
らるる上州真稔城の守多治良豊後守
とらふ後継りちしとていふとて少康氏康
とらふとてあ人らたつとていふとていふと
又書とていふとていふとていふとていふと
いふとていふとていふとていふとていふと
おんは

すれ門向のま楊ちとていふとていふと
かかかか出つとていふとていふとていふと
二小麻野町

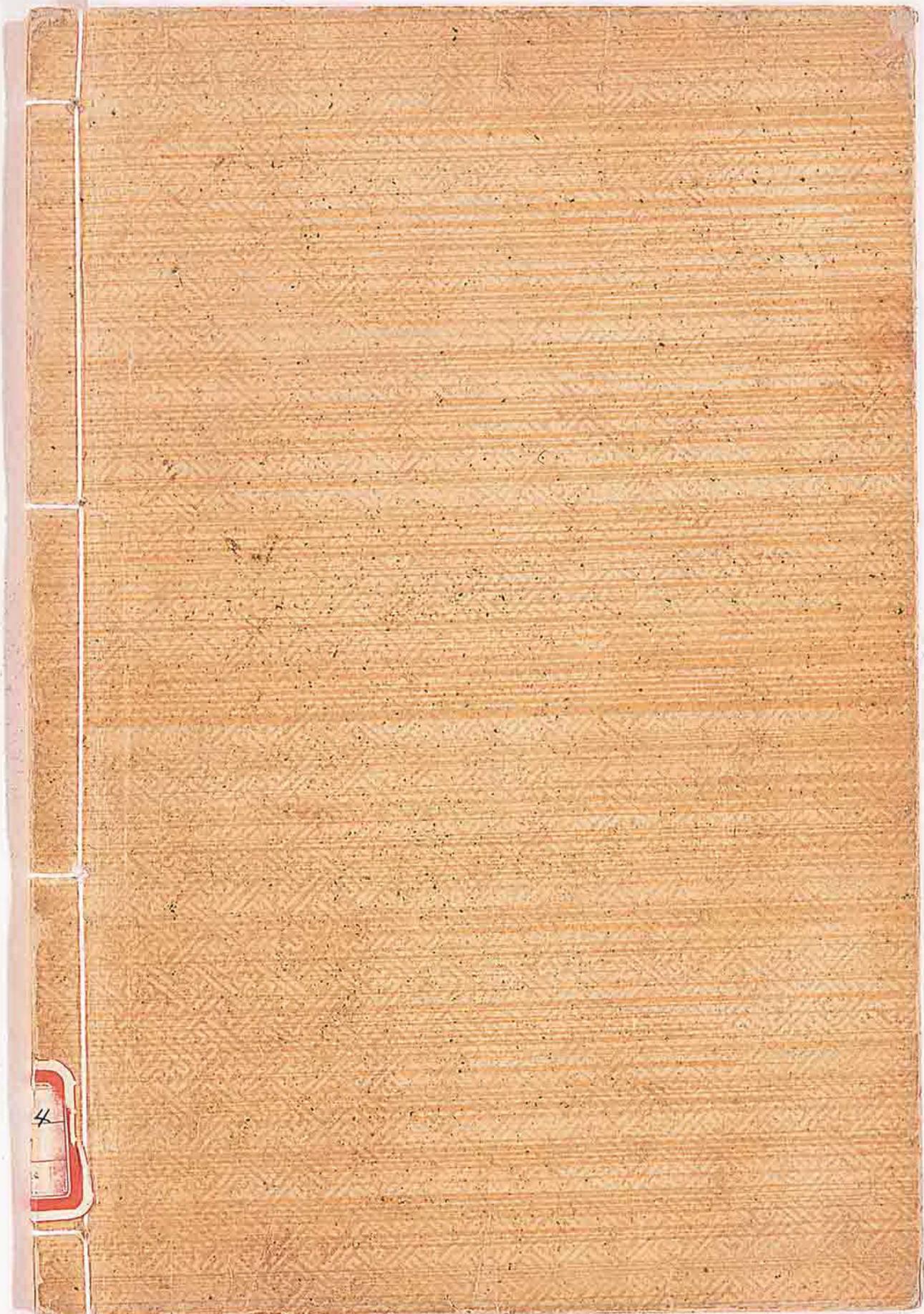
ふいぢきり

旅のそ日暮のぬちぬ社務とていふとていふと
終とていふとていふとていふとていふと

L 294-7

昭和37.6.14 参入

納入先：原尾屋若石 (申付不_レ可)



4